

# 【小施策評価(平成29年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	学校教育課	
施策	17	子どもの教育の充実	評価 責任者	小山田 秀次	内線 7330
小施策	17-1	小中学校教育の充実	評価 シート 作成者	吉田 尚	内線 7332

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<p>・学力検査において、小学校の国語、算数及び中学校の国語、数学、英語とも全国水準を上回っているが、中学校の数学、英語は一層の向上を図る必要がある。また、義務教育9年間の系統性のある指導の充実を図る必要がある。</p> <p>・いじめやスマートフォンの使用に係る問題が発生していることから、生命を尊重する心や他人を思いやる心など、道徳的価値の自覚を促し、豊かな人間性を育む必要がある。</p> <p>・体力運動能力検査において、小中学校ともに走力、瞬発力などに課題が見られることから、体力向上の取組の充実・改善を図る必要がある。また、学校給食については、老朽化した施設・設備の整備などを進める必要がある。</p> <p>・子どもを取り巻く環境が大きく変化してきていることから、児童生徒・家庭・地域社会・学校・行政が連携を図り、それぞれの役割と責任を明確にしながら、地域の子どもは地域で育てるとする市民協働の教育を推進する必要がある。</p>	<p>児童生徒の学力の実態を的確に把握しながら、基礎的・基本的な学力の向上を図る。また、各中学校区の実状に応じて、これまでの連続した教育活動をより一層強化するものとした小中一貫教育や勤労観・職業観を育むキャリア教育、情報化社会に対応した情報モラル教育を進める。</p> <p>学校の教育活動全体を通じた道徳教育の充実のほか、いじめを「つらくない」「みのがさない」「のこさない」取組や不登校対策の充実を図る。また、小中学校児童生徒を対象に、盛岡の先人や風土・文化を盛り込んだ先人教育を進める。</p> <p>学校保健事業や体育振興事業の充実をめざしながら、児童生徒の健康の保持と体力・運動能力の向上を図る。また、学校給食については、都南学校給食センターをはじめとする老朽化した各調理場の適正な規模、配置などを検討し、計画的に改善等を進める。</p> <p>地域の教育課題を明確にしながら、学校と家庭、地域が一層連携を深め、地域に根ざした教育振興運動を展開する。</p>
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
小中学生	学力の向上が図られる。心身ともに健全育成が図られる。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	問題点
指標① 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較 【小学校4年生・国語】	ポイント	↗			
当初値 (H25) 110.6	H31目標値 113.0	H36目標値 113.0			
<p>全国学力・学習状況調査、及び、数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、いずれも全国平均より高い水準であった。NRT検査において大領域の状況を平成28年度と比較すると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の三領域で2ポイントずつ上昇している。</p> <p>盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「学習課題を把握し見直しをみる活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」が授業に位置付けられてきたことによる。</p>					
<p>NRT検査において、「読むこと」の領域において、無答率が3割を超える小問が3問あった。</p> <p>授業における思考を促す学習活動の不足と、無解答率の改善につながる「問われていることを理解する力」「説明する力」の不足が考えられる。</p>					
指標② 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較 【小学校4年生・算数】	ポイント	↗			
当初値 (H25) 108.4	H31目標値 110.0	H36目標値 110.0			
<p>全国学力・学習状況調査、及び、数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、いずれも全国平均より高い水準であった。NRT検査において大領域の状況を平成28年度と比較すると、「数と計算」「数量関係」領域は1ポイント、「量と測定」「図形」領域は2ポイント上昇している。</p> <p>盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「学習課題を把握し見直しをみる活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」が授業に位置付けられてきたことによる。</p>					
<p>NRT検査において、「数と計算」の領域において、無答率が2割を超える小問が4問あった。</p> <p>授業における思考を促す学習活動の不足と、無解答率の改善につながる「問われていることを理解する力」「説明する力」の不足が考えられる。</p>					
指標③ 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較 【中学校2年生・国語】	ポイント	↗			
当初値 (H25) 103.8	H31目標値 107.0	H36目標値 107.0			
<p>全国学力・学習状況調査、及び、数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、いずれも全国平均より高い水準であった。</p> <p>盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「学習課題を把握し見直しをみる活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」が授業に位置付けられてきたことによる。</p>					
<p>NRT検査において大領域の状況を平成28年度と比較すると、四領域すべてにおいて1~4ポイント下回った。また、「読むこと」の領域において、無答率が3割を超える小問が4問、その中で5割を超える無答率が2問あった。</p> <p>授業における思考を促す学習活動の不足と、無解答率の改善につながる「問われていることを理解する力」「説明する力」の不足が考えられる。</p>					

## 今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
<p>★ 各種学力調査を検証機会とした指導改善のCAPDサイクルの構築のため、Cの段階としての目標の達成度の確認と、それを受けた取組内容の重点化を、学校全体で組織的に取り組む体制の構築を推進する。また、授業実践として、振り返る活動の充実のため、授業のねらいを明確にした「児童生徒が思考を実感できる授業」づくりの徹底をめざした指導・助言を行う。</p> <p>★ 学校における組織的な取組の評価を推進するため、各小中学校で作成する「調査結果活用レポート」の内容を校内の全教職員で共有し、活用を図るよう支援する。</p>	
<p>★ 各種学力調査を検証機会とした指導改善のCAPDサイクルの構築のため、Cの段階としての目標の達成度の確認と、それを受けた取組内容の重点化を、学校全体で組織的に取り組む体制の構築を推進する。また、授業実践として、振り返る活動の充実のため、授業のねらいを明確にした「児童生徒が思考を実感できる授業」づくりの徹底をめざした指導・助言を行う。</p> <p>★ 学校における組織的な取組の評価を推進するため、各小中学校で作成する「調査結果活用レポート」の内容を校内の全教職員で共有し、活用を図るよう支援する。</p>	
<p>★ 各種学力調査を検証機会とした指導改善のCAPDサイクルの構築のため、Cの段階としての目標の達成度の確認と、それを受けた取組内容の重点化を、学校全体で組織的に取り組む体制の構築を推進する。また、授業実践として、振り返る活動の充実のため、授業のねらいを明確にした「児童生徒が思考を実感できる授業」づくりの徹底をめざした指導・助言を行う。</p> <p>★ 学校における組織的な取組の評価を推進するため、各小中学校で作成する「調査結果活用レポート」の内容を校内の全教職員で共有し、活用を図るよう支援する。</p>	

実績値の推移				実績の評価		評価を踏まえた取組の方向性 ★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
指標	単位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	問題の要因分析	
指標④ 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較 【中学校2年生・数学】	ポイント	↗	当初値 (H25) 102.2   H31目標値 105.0   H36目標値 105.0	全国学力・学習状況調査、及び、数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、いずれも全国平均より高い水準であった。NRT検査において大領域の状況を平成28年度と比較すると、「関数」領域は3ポイント、「資料の活用」領域は16ポイント上昇した。「図形」領域は変わらなかった。	盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「学習課題を把握し見直しをみる活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」が授業に位置付けられてきたことによる。	★ 各種学力調査を検証機会とした指導改善のCAPDサイクルの構築のため、Cの段階としての目標の達成度の確認と、それを受けた取組内容の重点化を、学校全体で組織的に取り組む体制の構築を推進する。また、授業実践として、振り返る活動の充実のため、授業のねらいを明確にした「児童生徒が思考を実感できる授業」づくりの徹底をめざした指導・助言を行う。  ★ 学校における組織的な取組の評価を推進のため、各小中学校で作成する「調査結果活用レポート」の内容を校内の全教職員で共有し、活用を図るよう支援する。
			問題点	NRT検査において、「数と式」領域は3ポイント下がった。また、「数と計算」の領域において、3割を超える無答率が5問、その中で6割を超える無答率が1問あった。	授業における思考を促す学習活動の不足と、無解答率の改善につながる「問われていることを理解する力」「説明する力」の不足が考えられる。	
指標⑤ 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較 【中学校2年生・英語】	ポイント	↗	当初値 (H25) 103.2   H31目標値 105.0   H36目標値 105.0	全国学力・学習状況調査、及び、数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、いずれも全国平均より高い水準であった。NRT検査において大領域の状況を平成28年度と比較すると、4領域全てにおいて全国比100を上回った。領域間のバランスもとれている。	盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「学習課題を把握し見直しをみる活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」が授業に位置付けられてきたことによる。	★ 各種学力調査を検証機会とした指導改善のCAPDサイクルの構築のため、Cの段階としての目標の達成度の確認と、それを受けた取組内容の重点化を、学校全体で組織的に取り組む体制の構築を推進する。また、授業実践として、振り返る活動の充実のため、授業のねらいを明確にした「児童生徒が思考を実感できる授業」づくりの徹底をめざした指導・助言を行う。  ★ 学校における組織的な取組の評価を推進のため、各小中学校で作成する「調査結果活用レポート」の内容を校内の全教職員で共有し、活用を図るよう支援する。
			問題点	NRT検査において、大領域の状況を平成28年度と比較すると、「書くこと」において3ポイント、他の3領域は1ポイント下回った。また、「書くこと」の領域において、無答率が2割を超える小問が2問あった。	授業における思考を促す学習活動の不足と、無解答率の改善につながる「問われていることを理解する力」「説明する力」の不足が考えられる。	
指標⑥ 不登校児童の出現率【小学校】	ポイント	↘	当初値 (H25) 0.19   H31目標値 0.19   H36目標値 0.19	2年連続で出現率が減少傾向にある。低学年の不登校児童がほとんどいないという望ましい状況が見られる。	未然防止と初期対応の充実を重点とし、欠席3日で校内「対応チーム」を発足し、組織的な対応をすることの周知が図られたものによる。	★ 新規不登校児童の未然防止と初期対応の更なる充実を図るため、不登校を未然に防ぐ学級経営及び学習指導や、「欠席3日で校内『対応チーム』」を発足し、ケース会議を開催する。」という初期対応の基本の徹底について、指導・助言を行う。  ★ 不登校・別室登校が継続している児童の再登校・学級復帰支援の充実を図るため、「不登校児童生徒個票」を基にした、「具体的計画立案 → 対応 → 評価」のPDCAサイクルによる「対応チーム」での組織的な対応の強化に向けて支援する。
			問題点	小学5年生の不登校児童数が、かなり多い状況にある。例年に比べ、5年生になってから新規不登校になる児童が多い。	発達の段階から考え、家庭環境における自分が置かれている状況を認識したり、周囲の児童の成長に伴い、人間関係づくりに孤独感や疎外感を感じたり、学習面に困難を感じたりすることで、自己肯定感が高まらないことによるものと考えられる。	
指標⑦ 不登校生徒の出現率【中学校】	ポイント	↘	当初値 (H25) 1.99   H31目標値 2.00   H36目標値 2.00	過去10年で最も高かった昨年度に比べ、出現率が微減した。	不登校生徒への対応として、不登校児童生徒個票を活用したり、SSWと連携したり、適応指導教室「ひろばモリーオ」や医療、福祉等の関係機関と連携したりする等、未然防止と解消への取組が充実したことによる。	★ 新規不登校児童の未然防止と初期対応の更なる充実を図るため、不登校を未然に防ぐ学級経営及び学習指導や、「欠席3日で校内『対応チーム』」を発足し、ケース会議を開催する。」という初期対応の基本の徹底について、指導・助言を行う。  ★ 不登校・別室登校が継続している児童の再登校・学級復帰支援の充実を図るため、「不登校児童生徒個票」を基にした、「具体的計画立案 → 対応 → 評価」のPDCAサイクルによる「対応チーム」での組織的な対応の強化に向けて支援する。
			問題点	依然として出現率が高い傾向にある。不登校生徒の数は、中学校1年生は小学校6年生の時に比べ、約3.8倍になっている。中学校2年生と3年生の人数が非常に多い状態が続いている。	「家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不平等」といった「家庭に係る状況」が、不登校の要因の約5割を占めており、要因別分類の中で最も高くなっている。「学業の不振」や「友人関係をめぐる問題」などの要因もあり、不登校の要因や背景が、年々多様化しており、各校における対応が難しくなっていることによるものと考えられる。	

実績値の推移				実績の評価		評価を踏まえた取組の方向性 ★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
指標		単位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	
指標⑧ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【小学校5年生:男】		ポイント	↗			
当初値 (H25)	97.8	H31目標値	101.0	H36目標値	101.0	
過去の体力調査結果では、落ち込みが見られる学年ではあるが、学年が上がるにつれて改善が図られている。柔軟性と瞬発力が全国標準値を上回っている。				体育の授業での運動量確保や、盛岡市と体育協会と協力し、SAQTトレーニングの取組によって改善が図られている要因の一つと考える。		
問題点				問題の要因分析		
持久力と走力に改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。				正しい姿勢で歩いたり走ったりできる児童が減少してきている。また、登下校時の保護者による送り迎えが増えてきていることも要因の一つと考える。		★ 交通機関の関係や登下校時の問題もあり、保護者の送り迎えが増えてきているが、徒歩の登下校を呼びかけをし、基礎体力の向上を図っていく。 ★ 体力向上に係っての実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。 ★ 研究発表会への実践では、「走る」「投げる」「跳ぶ」に特化し研究を推進していく。
指標⑨ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【小学校5年生:女】		ポイント	↗			
当初値 (H25)	100.5	H31目標値	101.0	H36目標値	101.0	
学年が上がるにつれて全国標準値を上回っている種目が増え、改善が図られている。筋力、筋持久力、柔軟性、瞬発力、投力が全国標準値を上回っている。				体育の授業での運動量確保や、盛岡市と体育協会と協力し、SAQTトレーニングの取組によって改善が図られている要因の一つと考える。		
問題点				問題の要因分析		
持久力と走力に改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。				正しい姿勢で歩いたり走ったりできる児童が減少してきている。また、登下校時の保護者による送り迎えが増えてきていることも要因の一つと考える。		★ 交通機関の関係や登下校時の問題もあり、保護者の送り迎えが増えてきているが、徒歩の登下校を呼びかけをし、基礎体力の向上を図っていく。 ★ 体力向上に係っての実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。 ★ 研究発表会への実践では、「走る」「投げる」「跳ぶ」に特化し研究を推進していく。
指標⑩ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【中学校2年生:男】		ポイント	↗			
当初値 (H25)	100.4	H31目標値	102.0	H36目標値	102.0	
前年度1学年時に比べて、大幅に体力の向上が図られている。柔軟性、瞬発力が全国標準値を上回っている。				体育の授業での運動量確保や、部活動での運動量が増加したことなどによって基礎体力の強化が図られていることが要因の一つと考える。		
問題点				問題の要因分析		
持久力と走力に改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。また、投力の値が低いため、対策が必要である。				持久力と走力の値も上がってきている現状であるが、全国基準値も上がっている。運動に対して、正しく身体を動かすことができない生徒が多い。		★ 小学校に引き続き、「走る」「投げる」「跳ぶ」に特化し、体力の向上を図っていく。 ★ 体育の授業や部活動を通して、ウォーミングアップの重要性を理解させ、正しい身体の使い方を習得させることで、基礎体力の向上を図っていく。 ★ 体力向上に係っての実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。
指標⑪ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【中学校2年生:女】		ポイント	↗			
当初値 (H25)	100.2	H31目標値	102.0	H36目標値	102.0	
筋力、柔軟性、投力が全国基準値を上回っている。				体育の授業での運動量確保や、部活動での運動量が増加したことなどによって基礎体力の強化が図られていることが要因の一つと考える。		
問題点				問題の要因分析		
持久力と走力に改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。				持久力と走力の値も上がってきている現状であるが、全国基準値も上がっている。運動に対して、正しく身体を動かすことができない生徒が多い。		★ 小学校に引き続き、「走る」「投げる」「跳ぶ」に特化し、体力の向上を図っていく。 ★ 体育の授業や部活動を通して、ウォーミングアップの重要性を理解させ、正しい身体の使い方を習得させることで、基礎体力の向上を図っていく。 ★ 体力向上に係っての実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。